

JIHSの関わる感染症インテリジェンス

統括庁・厚労省
関連中央省庁

政策課題



情報要求



意思決定

医療対応

公衆衛生対応

対抗医薬品(MCM)

のR&D

情報収集
分析
評価

感染症
インテリジェンス

統合・翻訳
コミュニケーション

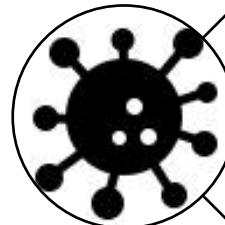


Japan Institute for Health Security



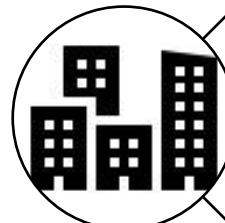
感染症の発生情報

- サーベイランス
- 公式：公衆衛生当局、研究所等
- 非公式：医療機関、アカデミア、メディア、SNS等
- 積極的疫学調査



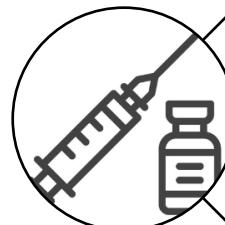
感染症に関する情報

- 病原体の*in vivo/vitro*研究
- 臨床的知見
- 疫学的知見



社会的インパクトを含む評価のための情報

- 医療・公衆衛生（サーベイランス、検査体制）
- 社会インフラ
- 政治・経済等社会情勢

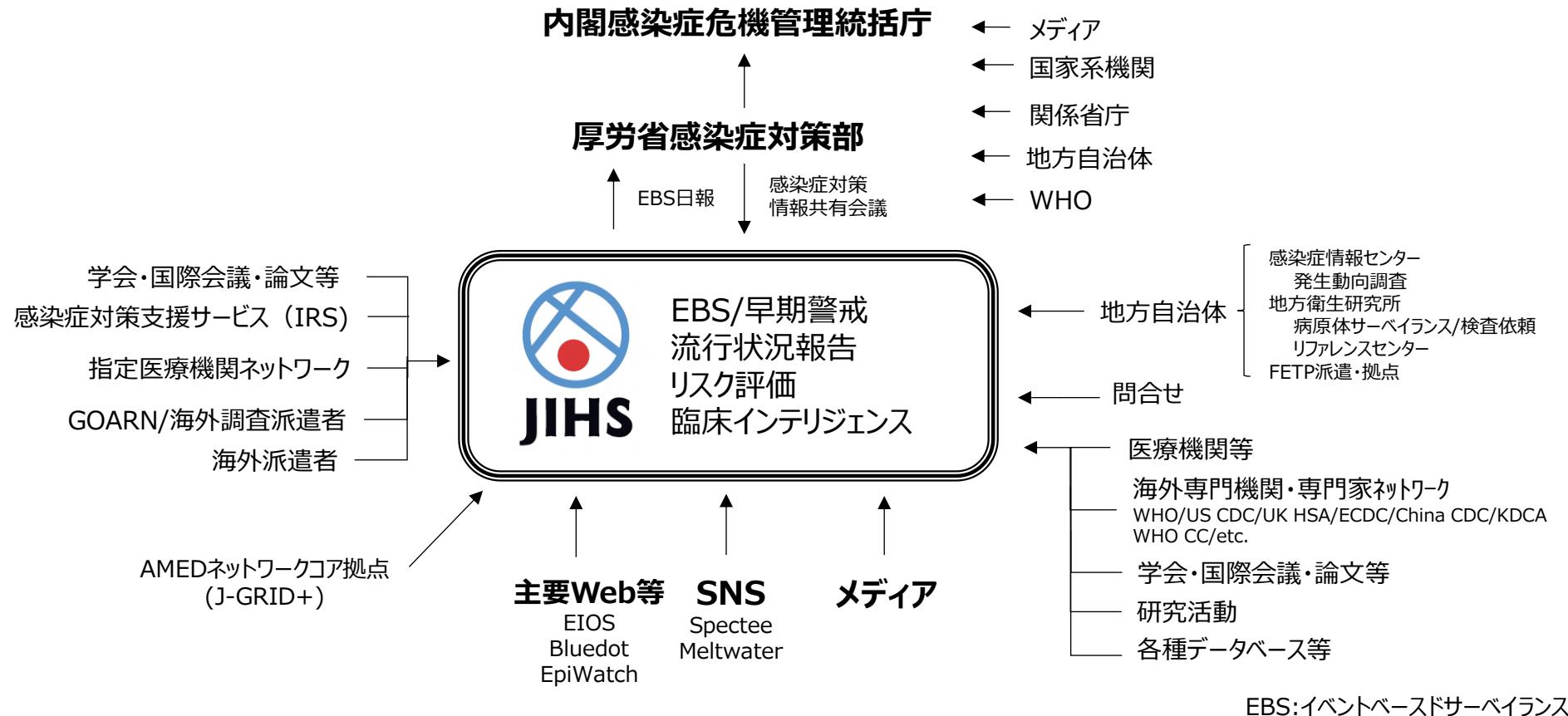


研究開発に関する情報

- 開発標的
- 開発パイプライン
- 開発要求

感染症情報集約体制（感染症インテリジェンス・ハブ）

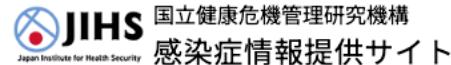
- 適切な情報管理の下、関係省庁と密に連携しながら、**広範で深い情報収集と集約**を進め、JIHSの専門家の専門的知見を最大限に活用した評価・分析を**タイムリーに提供する**組織的なインテリジェンス体制の構築を図る。
- 組織統合により、**より広範な関係機関からの情報収集、疫学調査、病原体解析から臨床研究及び公衆衛生研究まで**を総合的に実施し、**多面的で統合された知見の提供が可能**になる。



情報収集・分析・リスク評価機能（Disease Intelligence）におけるJIHSの取り組み

- ・迅速なデータ収集・分析体制の構築
- ・情報集約体制の拡充
- ・国内外のネットワーク形成
- ・コミュニケーションの強化
- ・インテリジェンスの人材育成

感染症に関する情報提供



ENGLISH
MENU

[トップページ](#) > サーベイランス



<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/index.html>

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）届出の動向

2025年12月23日更新版

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）届出の動向
2022年1月1日～2025年11月30日（2025年12月10日現在）

国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 応用疫学研究センター
感染症サーベイランス研究部

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（streptococcal toxic shock syndrome）は、かつて劇的で、発病から数十時間以内にショック症状、多臓器などを伴う、致命率の高い感染症である。

図3. Lancefield分類別（A群、B群、G群）年齢別 剧症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）届出数（n=4,449 診断日:2022/1/1 - 2025/11/30（2025/12/10現在））

※Lancefield分類が複数の届出は除く

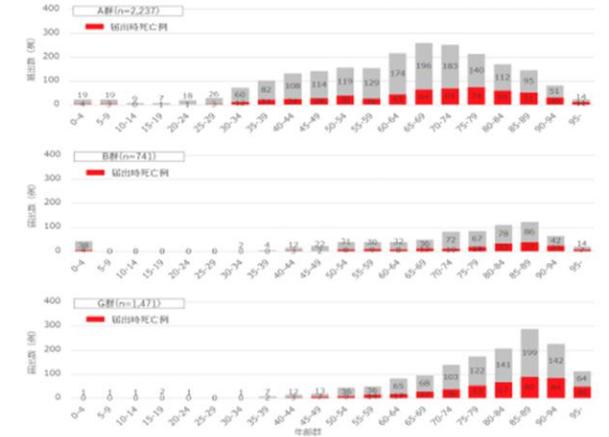
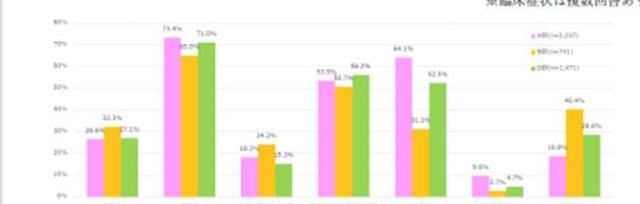


図4. Lancefield分類別（A群、B群、G群）劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）の届出に必要な臨床症状の割合（ショック症状を除く）（n=4,449 診断日:2022/1/1 - 2025/11/30（2025/12/10現在））

※Lancefield分類が複数の届出は除く

※臨床症状は複数回答あり



感染症に関する情報提供

JIHS 国立健康危機管理研究機構
感染症情報提供サイト

感染症を探す サーベイランス マニュアル類 ENGLISH MENU

サービス利便性向上及び運用効率改善のため、URLのメンテナンスを行いました。
お気に入りなどの登録をされている方は、リンクの貼り換えをお願いします。

国内外の感染症の発生状況をお届けします
当サイトは、国立健康危機管理研究機構が運営する公式サイトです

IASR

Infectious Diseases Weekly Report JAPAN
IDWR

SEARCH 感染症について検索

フリーワード検索 キーワードを入力してください 検索

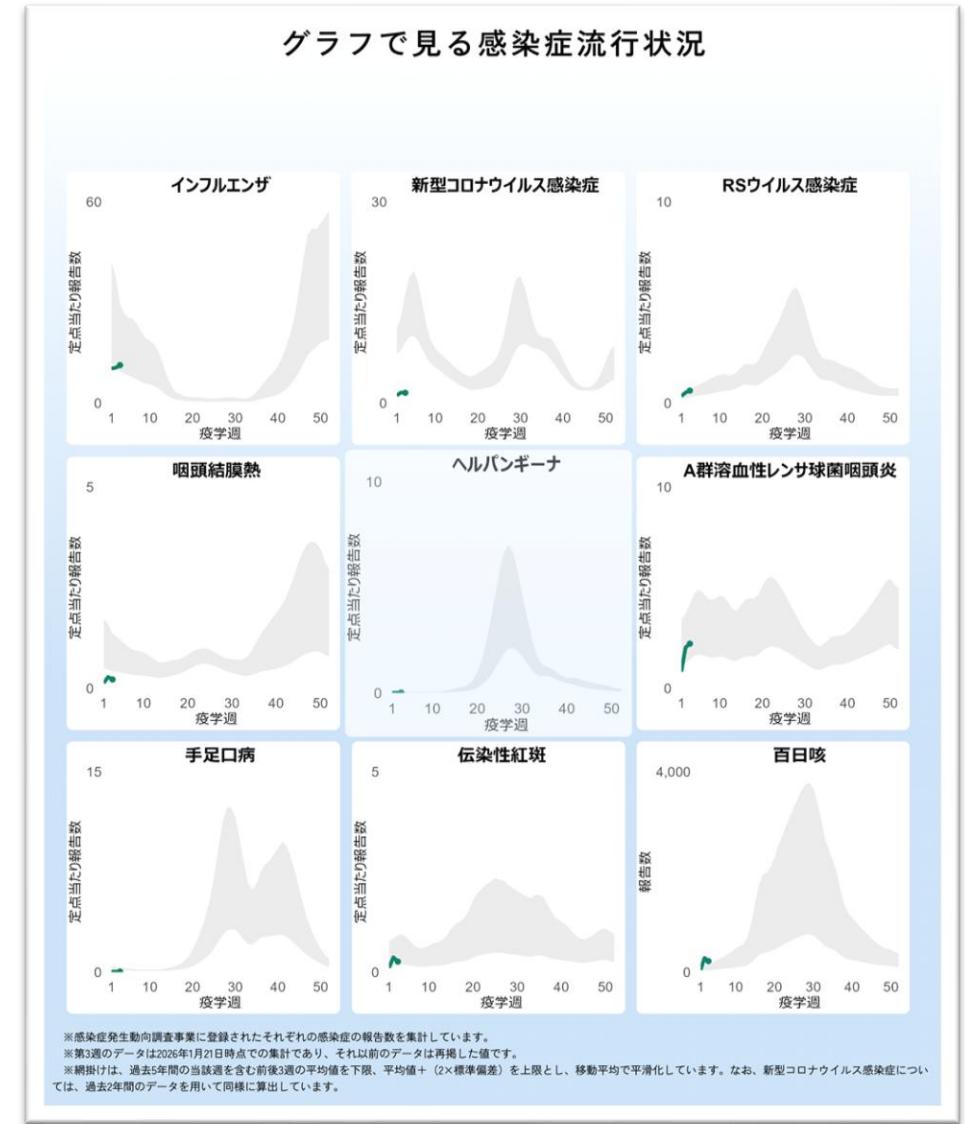
疾患名から探す > 感染源や特徴から探す >

● キーワードから探す
新型コロナウィルス感染症 2026年IDWR速報
麻疹発生動向調査 急性呼吸器感染症(ARI)
予防接種

PICKUP

病原体検出マニュアル → エムボックス → 新型コロナウィルス感染症 →

<https://id-info.jihs.go.jp/>



<https://www.jihs.go.jp/content10/030/Dashboard.html>

感染症に関する情報提供：リスク評価

- ・ 感染・伝播性、重症度などから国内の公衆衛生対応への影響が懸念される新興・再興感染症について、科学的知見をまとめ、国内の対策に資するリスク評価を実施
- ・ JIHS発足後、以下の6報を発出
 - ・ 鳥インフルエンザH5N1 (2025年4月)
 - ・ 麻しん (2025年4月)
 - ・ 百日咳 (2025年5月)
 - ・ STSS (2025年9月)
 - ・ SFTS (2025年9月)
 - ・ ニパウイルス感染症 (2026年1月)



The screenshot shows the homepage of the Japan Institute for Health Security (JIHS) website. The header includes the JIHS logo, the text '国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト', and links for '感染症を探す', 'サーベイランス', 'マニュアル類', 'ENGLISH', and 'MENU'. Below the header, a blue banner displays the title 'ニパウイルス感染症の発生状況とリスク評価'. Underneath the banner, there are social sharing buttons for 'X ポスト', 'シェアする', and 'LINEで送る'. The main content area is titled '1.ニパウイルス感染症の概要' and discusses the virus's origin in Southeast Asia, transmission routes, and symptoms. It also mentions WHO's classification of Nipah as a 'priority disease'. The next section, '2.ニパウイルス感染症の発生状況', provides a historical overview of the disease's emergence in 1998-1999 in Malaysia and Singapore, and its subsequent spread to Bangladesh, India, and other countries. The final section, '3.リスク評価', concludes that the risk of Nipah virus infection is high in Southeast and South Asian countries due to close contact with infected animals and humans.